

脳神経小児科

1、 附属病院における担当診療科

- (1) 小児神経科
- (2) 遺伝子診療科

2、 受け入れ身分

- (1) 医員
- (2) 大学院生

鳥取大学大学院医学系研究科

医学専攻博士課程（脳神経小児科学分野）（4年制*）

①一般選抜

②社会人特別選抜（本人医員または一般病院に勤務しながら入学可能）

*研究の内容によっては3年または3年半で修了可能

3、 初期臨床研修修了後の選択可能なコース

(1) 卒後臨床研修修了者（小児科医としての経験がないもの）（4-6年コース）

1年目 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科、小児科、NICU

2.3年目 地域内病院小児科あるいは小児病院

4年目 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科

5.6年目 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科、2年間のうち半年は
総合療育センター・国立病院機構（松江病院、鳥取医療センター）
のうち1箇所を研修

(2) 小児科医として2年以上の経験があるもの（1-2年コース）

希望により以下のようなコースを選択

①脳小単独：脳神経小児科で1-2年専門医研修

②脳小+リハビリ・療育・筋ジス管理：1年目を脳神経小児科、2年目を総合療育センター・国立病院機構（松江病院、鳥取医療センター）

(3) 研修期間中任意に大学院医学専攻博士課程に入学できる

4、脳神経小児科で研修を終了した場合、医学博士の学位と下記の専門医受験資格を得ることが出来る

- (1) 日本小児科学会認定「小児科専門医」
- (2) 日本小児神経学会認定「小児神経科専門医」
- (3) 日本人類遺伝学会認定「臨床遺伝専門医」
- (4) 日本てんかん学会認定「てんかん専門医」

5、各種専門医受験資格

専門医	小児科専門医取得の要否	受験に必要な研修期間	受験に必要な学会会員歴
小児科専門医		卒後臨床研修 2年+小児科臨床研修 3年（小児神経の研修も含む）	3年
小児神経科専門医	要	5年	5年
臨床遺伝専門医	要*	3年	3年
てんかん専門医	不要	5年（今後変更あり）	5年

*社団法人日本専門医制評価・認定機構の定める基本的領域の学会の専門医（認定医）あるいは専門医制度委員会が認める専門医（認定医）

6、診療分野ならびに特徴ある診療内容

A、診療分野

1) 小児神経疾患

出生前および周産期異常による神経障害、感染・免疫異常による神経疾患、脳腫瘍、末梢神経疾患、筋疾患、先天異常、先天代謝異常症と神経変性疾患、てんかんとけいれん性疾患、自閉症、学習障害、知的障害、注意欠陥/多動性障害

2) 小児リハビリテーションおよび療育（脳性麻痺、発達障害）

3) 心療内科・心身医学（心身症、チック症候群）

B、特徴ある診療内容

1) 主な対象疾患

(1) 周産期医療

NICUにおいて脳障害の予防ならびに早期治療をNICU担当医と協力して行い、NICU退院後、乳幼児期の発達をチェックするとともに、育児援助を行う。

(2) 感染・免疫異常

脳炎・髄膜炎、急性脳症などの感染性疾患、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、SLEなどの膠原病の中樞神経症状などの急性期の診断と治療方針を決定し、外来での治療、後遺症に対する療育を行う。

(3) 脳腫瘍

化学療法、放射線療法や術後の管理を脳外科と協力して行う。

(4) 末梢神経疾患

遺伝性ニューロパチー、脊髄性筋萎縮症、ギランバレー症候群の診断と治療方針を決定し、長期にわたる二次的障害の軽減のためのリハビリテーション、全身管理を行う。

(5) 筋疾患

筋ジストロフィー、先天性ミオパチー、代謝性ミオパチー、重症筋無力症、皮膚筋炎の診断、遺伝子診断、筋生検を行い、治療方針を決定する。長期にわたる外来での治療（特に呼吸不全の在宅治療）、二次的障害の予防、生活の援助を行う。

(6) 先天異常

染色体異常、先天奇形症候群、脳形成不全症の診断と合併する障害に対する治療とともに、全身管理、発達促進法を指導する。

(7) 先天代謝異常症と神経変性疾患

アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、核酸代謝異常症などの生化学診断、遺伝子診断を行い、長期にわたる治療方針を決定するとともに、合併する障害の軽減のための療育指導を行う。ライソゾーム病に対する酵素補充療法を行う。

(8) てんかんとけいれん性疾患

てんかんや不随意運動のコントロールを長期にわたって行う。

(9) 発達障害

自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、精神遅滞の行動の問題に対する治療を行う。教育関係者との連携の中で、社会適応能力を上げるための療育を行う。

(10) 急性疾患

けいれん重積の治療、重度障害児の急性および慢性の呼吸・循環管理を含めた全身管理を行う。

(11) 遺伝相談

遺伝性疾患の遺伝相談、遺伝カウンセリングを行う。

(12) 心療内科・心身医学

心身症、不登校、拒食症などについて、カウンセリングを行う。

2) リハビリテーション・療育

神経疾患は根本治療が出来ないものが多く、患児の状態に合わせたリハビリテーションや療育を行う必要がある。総合療育センターでのリハビリテーション専門医による指導のもと、患児の機能訓練を行っている。また療育施設と合同カンファレンスを行っている。

3) 地域との連携

発達障害の早期発見、早期治療の観点から、地域の乳幼児健診で発達障害児のスクリーニングと指導・指導を県・市町村と連携して行っている。

4) 習得できる専門的な検査・治療手技

- ①頭部 CT、MRI、脳血管撮影、SPECT、頭部エコーの読影
- ②脳波の記録と読影：特に脳波・ビデオ同時記録による発作の評価
- ③電気生理学的検査（末梢神経伝導検査、聴性脳幹反応など）の実施と評価
- ④心理検査（発達検査、知能検査）の実施と評価
- ⑤神経病理・筋病理所見の見方
- ⑥神経筋疾患の呼吸機能評価と管理
- ⑦脳性麻痺に対するボツリヌス毒素筋注療法、バクロフェン髄注療法

7、専門医研修施設

- 1) 鳥取大学医学部附属病院
- 2) 脳神経小児科関連病院

上記（1）、（2）において、小児科全般にわたる研修ならびにそれぞれ希望する専門医研修を実施する

8、脳神経小児科関連病院

- 鳥取県立中央病院
- 鳥取県立厚生病院
- 鳥取県立総合療育センター
- 国立病院機構松江病院
- 国立病院機構鳥取医療センター
- 東部島根医療福祉センター
- 西部島根医療福祉センター

○その他これまで専門医研修を依頼してきた病院（小児科研修を含む）

- ・東北大学（宮城県）・・・リハビリテーション・高次脳機能
- ・国立精神・神経センター・・・心療内科・心身症
- ・神奈川県立こども医療センター（神奈川）・・・新生児科、神経内科
- ・大津赤十字病院（滋賀）・・・小児科一般
- ・九州大学（福岡）・・・小児科一般
- ・北九州市立総合療育センター（福岡）・・・リハビリテーション
- ・鹿児島市立病院（鹿児島）・・・小児科一般

- ・松江赤十字病院・・・小児科一般
- ・島根県立中央病院・・・小児科一般
- ・米子医療センター・・・小児科一般
- ・益田赤十字病院・・・小児科一般